

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月18日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21652041

研究課題名（和文） 『場の言語学』の構築：場の意味論と語用論

研究課題名（英文） Toward Construction of Linguistics of BA: Semantics and Pragmatics of BA

研究代表者

原田 康也（HARADA YASUNARI）

早稲田大学・法学学術院・教授

研究者番号：80189711

研究成果の概要（和文）：2009年度から2011年度にかけて、研究代表者・連携研究者・海外共同研究者・研究協力者たちが年間を通じて研究討議を行い、各年度の11月ないし12月に公開のシンポジウム・ワークショップを企画・開催して研究成果を公表した。「場の言語学」の構築に向けて、言語理論・意味論・語用論・対話研究・複雑系物理学・知能システム工学などに関わる国内・海外の研究者が集い、『場の言語学』の構築に向けて、理論的基盤を明らかにするとともに、関連分野の研究者の認識を新たにすることができた。

研究成果の概要（英文）：During the project period which started in fiscal 2009 and ended in fiscal 2011, researchers in various related fields including the principal investigator, liaison researchers, international research collaborators and supporting researchers joined together in private meetings, research meetings and two symposia and an international workshop for construction of and promotion of the concept of “linguistics of BA.” Through those activities by renowned researchers in theoretical linguistics, formal semantics and pragmatics, discourse and conversation analyses, chaos and complex systems, artificial intelligence and man-machine interface, we clarified the need for theoretical grounding of this new approach and established the significance of “linguistics of BA.”

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	0	900,000
2010年度	900,000	0	900,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	330,000	3,230,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：語用論・意味論・場・共創・創発・文脈指示・人称表現・待遇表現

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究を進めるにあたっての言語学的背景としては可能世界意味論を基盤とする形式意味論と統語理論・言語処理の融合に基づく研究・談話表示に基づく理論・状況理論と意味論・日本語終助詞の使用に関する談話管

理理論・対話研究・FTA (face threatening act)理論・ポライトネス理論・「わかまえ」の語用論・日本語と東欧諸語の人称詞と敬語に関する Meta-Informative Centering Theory などがあった。

(2) こうした言語理論研究の流れとは別に、清水博による「場」の理論ならびに清水博が主宰する NPO 法人「場の研究所」のメンバーが進めているさまざまな分野における場の理論に基づく研究が本研究計画の遂行に関係するとの見通しがあった。

2. 研究の目的

(1) 『場の言語学』とは、話し手・聞き手などを媒介する「文脈指示の場」を、独自の理論的構成物として認識することを通して、待遇表現などに関わる日本語のさまざまな言語現象を解明しようとするアプローチを意味する。

(2) 同一の話し手・聞き手によって同一の言及対象に関して複数の『場』が構成されるというのは、日本語母語話者の言語生活においては極めて日常的な現象であるが、こうした現象を理論的に記述するためには、言語使用を構成する要素として「文脈指示の場」を指定することが不可欠となる。

(3) 本研究計画では言語使用を構成する要素として「文脈指示の場」を指定し、話し手・聞き手・言及対象を「場」と独立に存在する個体としてではなく、この「文脈指示の場」との関係で立ち現れる関係的存在と規定することによって、さまざまな言語現象を適切に記述することが可能となる枠組みを確立することを目指した。

(4) 言語の使用における「場」の重要性は広く認識されてきたが、形式意味論・形式語用論の基本的な枠組みの中核に「場」を置くという試みはこれまで充分ではなかった。

3. 研究の方法

(1) 研究代表者を中心として、連携研究者・研究協力者・海外共同研究者ならびに関連分野の研究者との情報交換・研究討議をメールや非公開の打ち合わせで日常的に継続した。

(2) 上記の情報交換・研究討議の結果などを踏まえて、各年度後半の 11 月ないし 12 月に公開でのワークショップ・シンポジウムを企画・開催して、「場の理論」と「場の言語学」の意義について関連分野の研究者ならびに社会一般に広く訴える機会を設けた。

(3) 国内・海外で開催される関連分野の学会・研究会・ワークショップなどで、「場の言語学」のアプローチと研究成果について発表を継続的に行った。

(4) 日本語の「の」と韓国語の '-ui' の使用と解釈の共通点と相違点の比較、雑誌コラムに

現れる副詞と文末表現（スタイルとモダリティ）の分析、語の位相についての日本語学習者のための辞書記述の調査、日本語話者による「から」節と「ので」節の使用、現代中国語自然会話におけるスタンスの表現など、日本語に限らずさまざまな言語における具体的な言語現象に関わる分析を進めた。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果：対話・談話の分析において「場の言語学」の視点が不可欠であることをさまざまな研究において示すことができた。詳細については 5 の論文・学会発表に示すとおりである。

(2) 国内外における位置づけとインパクト：以下の公開シンポジウム・国際ワークショップ等を開催した。

<http://www.decode.waseda.ac.jp/ba-linguistics/index-j.html>

(2.1) 2009 年 12 月 26 日に公開シンポジウム「地球時代の未来を設計する：場の論理の展開」を NPO 法人「場の研究所」の協力のもとに本研究計画の企画として早稲田大学で開催した。招待講演者として本研究計画の連携研究者の井出祥子のほか、NPO 法人「場の研究所」主宰者の清水博と元 SONY 会長の出井伸之を招いたことなどもあり、広く社会一般の関心を惹くこととなった。

<http://www.decode.waseda.ac.jp/announcement-for-2009-12-26-j.html>

(2.2) 2010 年 11 月 6 日に東北大学で開催されていた The 24th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation の企画として Toward a Linguistic Theory of Ba: Semantics and Pragmatics of Ba と題して公開シンポジウムを開催して、本研究計画の連携研究者の井出祥子のほか、公立はこだて未来大学学長の中島秀之と Stanford 大学言語情報研究センター所長の Stanley Peters が講演を行い、国内・海外からの参加者に「場の言語学」のアプローチの意義と有効性を訴える機会となった。

<http://www.compling.jp/pacific24/speakers.html#symp2>

(2.3) 2011 年 12 月 10-11 日に本研究計画と他の科研費による研究計画の合同で早稲田大学において「場の言語学国際ワークショップ」An International Workshop on Linguistics of BA を公開で開催した。国内からだけでなく、スタンフォード大学（アメリカ）・パリ第四大学（ソルボンヌ）（フランス）・香港理工大学（香港）・高麗大学校（韓国）・慶熙大学校（韓国）などから招待講演者・研究発表者の参加を得て、「場の言語学」に対する国際的な認知度を高めることができた。

<http://www.decode.waseda.ac.jp/announce/2011-12-10-11-j.html>

(2.4) 国内・海外の学会・研究会などにおいても「場の言語学」のアプローチと研究成果について発表を継続的に行った。詳細については5の論文・学会発表に示すとおりである。

(2.5) 本研究計画の活動も契機のひとつとなって、「場の理論」・「場の言語学」をキーワードとする以下の研究計画などが申請・採択されている。

(2.5.1)

種別：科研費基盤研究(C)

採択年度：2011年度～2013年度

研究題目：言語コミュニケーションにおける場の理論の構築：近代社会の問題解決を目指して

課題番号：23520527

代表者：大塚正之（早稲田大学）

(2.5.2)

種別：科研費（研究成果公開促進費）

採択年度：2012年度

出版物の題目：場所の言語学

課題番号：245067

代表者：岡智之（東京学芸大学）

(3) 今後の展望：

(3.1) 2011年12月10-11に開催した「場の言語学国際ワークショップ」での講演と研究発表に基づく論文集を取りまとめる予定で投稿を求めているところである。(2012年度内の発行を目指しているが、原稿執筆と査読・編集作業との兼ね合いで2013年度にずれ込む可能性も考えられる)

(3.2) 本研究計画の成果を踏まえてさらに発展的な研究を進めたいところであるが、片桐恭弘を代表者として行った申請が採択に至らなかったため、2012年度については経常的な研究経費の枠内で遂行可能な研究活動を継続する予定である。2012年12月に場の言語学国際ワークショップ（第二回）の開催を目指している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計15件)

- ① Sachiko Ide, "Roots of the Wakimae Aspect of Linguistic Politeness: Modal Expressions and Japanese Sense of Self," *Pragmaticizing Understanding Studies for Jef Verschueren*, Michael Meeuwis and Jan-Ola Östman (eds.), John Benjamin Publishing Company, 査読有, 2012, pp. 121-138.
- ② Sachiko Ide and Kishiko Ueno,

"Honorifics and Address Terms," *Pragmatics and Society*, Karin Aijmer and Gisle Anderson (eds.), Mouton de Gruyter, 査読有, 2011, pp. 34-78.

- ③ 井出祥子, "サステイナブルな地球のための異文化コミュニケーション: 個人主義の論理と場の論理," 『異文化コミュニケーション学への招待』, 鳥飼玖美子・野田研一・平賀正子・小山亘(編), みすず書房, 査読有, 2011, pp. 247-268.
- ④ 横森大輔, "自然発話の文法における逸脱と秩序: カラ節単独発話の分析から," 言語科学論集, 査読無, vol.17, 2011, pp. 49-75.
- ⑤ 阪井和男・栗山健, "談話分析による創発プロセスの可視化に向けて: マイクロ・アブダクションの連鎖としての創発プロセス," 電子情報通信学会技術報告, 査読無, vol. 111, 2011, pp. 71-76.
- ⑥ 片桐恭弘, "会話インタラクションの文化的依存性: 場の言語学の試み," 電子情報通信学会技術報告, 査読無, vol. 111, 2011, pp. 67-70.
- ⑦ Jae-Woong Choe, Sachiko Shudo, and Yasunari Harada, "A Contrastive Study on the Adnominal Constructions in Japanese and Korean: Relative Frequency of '-no' vs. '-ui'," 電子情報通信学会技術報告, 査読無, vol. 111, 2011, pp. 61-66.
- ⑧ 前坊香菜子, "雑誌コラムに現れる語彙とモダリティ: 副詞と文末表現を中心に," 電子情報通信学会技術報告, 査読無, vol. 111, 2011, pp. 55-60.
- ⑨ 前坊香菜子・難波彩子・坪田康・壇辻正剛・原田康也, "言語使用の場と言語テキストの評価," 電子情報通信学会技術報告, 査読無, vol. 111, 2011, pp. 37-42.
- ⑩ 首藤佐智子, "前提条件における間主観的制約の多様性について," 武黒麻紀子(編)「言語の間主観性—認知・文化の多様な姿を探る」, 早稲田大学出版会, 査読無, 2011, pp. 41-64.
- ⑪ 前坊香菜子, "日本語学習者のための語の用例記述に向けて: 辞書の品詞・用例から学ぶことができない語の情報," 特定領域研究「日本語コーパス」平成22年度公開ワークショップ予稿集, 査読無, 2010, pp. 83-88.
- ⑫ 横森大輔, "認知と相互行為の接点としての接続表現: カラとノデの比較から," 『認知言語学論考 No.9』, 山梨正明(編) ひとつじ書房, 査読無, No.9, 2010, pp. 211-244.
- ⑬ 片桐恭弘・井出祥子, "より豊かな言語理論の構築に向けて," 月刊『言語』, 査読有, vol. 38, no.12, 2009, pp.6-7.

- ⑭ 首藤佐智子・原田康也, "言語のメタ認知情報資源としてのインターネット: 一般的な母語話者の母語に対するメタ認知的内省にアクセスする," 日本認知科学会第 26 回大会発表論文集, 査読有, 2009, pp. 154-155.
- ⑮ 原田康也・首藤佐智子, "『の』の意味論と語用論再考: 容認度に反映される文脈への貢献度," 日本認知科学会第 26 回大会発表論文集, 査読有, 2009, pp. 218-219.
- [学会発表] (計 51 件)
- ① Sachiko Ide, "Ba-Oriented Perspective and Language Practice: An Attempt to Emancipatory Pragmatics," Conference Celebrating Professor Robin Lakoff's Retirement, 2012年5月4日, University of California at Berkeley, (アメリカ・カリフォルニア).
- ② Sachiko Shudo, "Accommodatable Presuppositions: Mutual Knowledge and Mutual Assumptions," The 12th Korea-Japan Workshop on Linguistics and Language Processing, 2012年3月24日, Kyung Hee University (韓国・ソウル).
- ③ Jae-Woong Choe, "Focus Particles in Korean: Their Grammatical Characteristics," 早稲田大学法学部主催公開講演会 2012年1月28日, 早稲田大学 (東京都).
- ④ アンドレ・ヴロダルチック, "人称と敬意, そして話題 (aboutness)," 早稲田大学メディアネットワークセンター言語情報科学研究部会主催公開講演会 2011年12月20日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑤ エレーヌ・ヴロダルチック, "What we mean and how do we talk about it in a few European Languages?," 早稲田大学メディアネットワークセンター言語情報科学研究部会・早稲田大学言語情報研究所主催公開研究会, 2011年12月19日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑥ Ayako Namba, "From Listenership to Identity Construction: Situated Laughter Activities in Japanese Conversational Interaction," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011年12月11日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑦ Kanako Maebo, "Vocabulary and Modality in Weekly Magazine Column Articles: Adverbs and Sentence-Final Expressions," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011年12月11日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑧ Daisuke Yokomori, "Subordinators as Interactional Resources: A study on Stand-Alone Adverbial Clauses in Japanese Conversation," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011年12月11日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑨ Kazuo Sakai and Ken Kuriyama, "Toward the Visualization of Emergence by Discourse Analysis," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011年12月11日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑩ Kei Yoshimoto, "The Japanese Sentence Structure and Its Dependence on BA," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011年12月11日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑪ Makiko Takekuro, "Spatial Description as Intersubjective Activity: Examples from Ishigaki," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011年12月11日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑫ Sachiko Shudo, "Limits for Accommodation for Presupposition: Mutual Assumptions, Mutual Knowledge and Politeness," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011年12月11日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑬ Jae-Woong Choe, Sachiko Shudo and Yasunari Harada, "Relations R Us: Semantics and Pragmatics of Adnominal Constructions in Korean and Japanese," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011年12月11日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑭ H el ene Włodarczyk, "Information Centering: Subjecthood and Topicality," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011年12月11日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑮ Andr e Włodarczyk, "Distributed Semantics with Pragmatic Issues," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011年12月11日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑯ Hideyuki Nakashima, "Can we Really Share BA in our Conversation?" An International Workshop on Linguistics of BA, 2011年12月10日, 早稲田大学 (東京都).
- ⑰ Sachiko Ide and Kishiko Ueno, "BA-oriented perspective and language practice," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011

- 年 12 月 10 日, 早稲田大学 (東京都) .
- ⑱ Yasuhiro Katagiri, "Modeling cultural factors in human interactions: an attempt in linguistics of BA," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011 年 12 月 10 日, 早稲田大学 (東京都) .
- ⑲ Masayuki Otsuka, "On BA Theory," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011 年 12 月 10 日, 早稲田大学 (東京都) .
- ⑳ Stanley Peters, "Common Sense Entailment and Shared Place," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011 年 12 月 10 日, 早稲田大学 (東京都) .
- ㉑ Jong-Bok Kim, "Korean Cleft Constructions and Interactions with the Information-Structure of Copula Constructions," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011 年 12 月 10 日, 早稲田大学 (東京都) .
- ㉒ Winnie Cheng, "Company Brochures: The Self and the Other in Semantic Categories," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011 年 12 月 10 日, 早稲田大学 (東京都) .
- ㉓ Atsushi Ito and Yasunari Harada, "Location-sensitive File Access Control: an ICT Application of Formal Linguistics," An International Workshop on Linguistics of BA, 2011 年 12 月 10 日, 早稲田大学 (東京都) .
- ㉔ 阪井和男・栗山健, "談話分析による創発プロセスの可視化に向けて: マイクロ・アブダクションの連鎖としての創発プロセス," 電子情報通信学会思考と言語研究会・早稲田大学情報教育研究所共催研究会, 2011 年 11 月 26 日, 早稲田大学 (東京都) .
- ㉕ 片桐恭弘, "会話インタラクションの文化的依存性: 場の言語学の試み," 電子情報通信学会思考と言語研究会・早稲田大学情報教育研究所共催研究会, 2011 年 11 月 26 日, 早稲田大学 (東京都) .
- ㉖ Jae-Woong Choe, Sachiko Shudo, and Yasunari Harada, "A Contrastive Study on the Adnominal Constructions in Japanese and Korean: Relative Frequency of '-no' vs. '-ui'," 電子情報通信学会思考と言語研究会・早稲田大学情報教育研究所共催研究会, 2011 年 11 月 26 日, 早稲田大学 (東京都) .
- ㉗ 前坊香菜子, "雑誌コラムに現れる語彙とモダリティ: 副詞と文末表現を中心に," 電子情報通信学会思考と言語研究会・早稲田大学情報教育研究所共催研究会, 2011 年 11 月 26 日, 早稲田大学 (東京都) .
- ㉘ 前坊香菜子・難波彩子・坪田康・壇辻正剛・原田康也, "言語使用の場と言語テキストの評価," 電子情報通信学会思考と言語研究会, 2011 年 6 月 24 日, 機械振興会館 (東京都) .
- ㉙ 前坊香菜子, "語の意味・用法の理解を妨げる要因: 日本語学習者が使用する辞書の調査を中心に," JACET 英語語彙研究会第 7 回大会(語彙研究フォーラム 2010) & 第 12 回 JACET 英語辞書研究会主催ワークショップ(年次大会), 2010 年 12 月 11 日, 早稲田大学 (東京都) .
- ㊀ Yasunari Harada, "Accessibility of Information and Default Interpretation among Communicating Agents," MIC Sorbonne 2010: Context-bound Communication, 2010 年 11 月 19 日, École Normale Supérieure (フランス・パリ) .
- ㊁ Sachiko Ide, "How and Why Two Strangers Can Co-create a Story: An Application of the 'Ba'-theory Based Approach to the Discourse," PACLIC 24 Symposium: Linguistics of 'Ba', 2010 年 11 月 06 日, 東北大学(宮城県) .
- ㊂ Stanley Peters, "Listening In," PACLIC 24 Symposium: Linguistics of 'Ba', 2010 年 11 月 06 日, 東北大学(宮城県) .
- ㊃ Hideyuki Nakashima, "Situated Language: Case of Japanese," PACLIC 24 Symposium: Linguistics of 'Ba', 2010 年 11 月 06 日, 東北大学(宮城県) .
- ㊄ Sachiko Ide and Kishiko Ueno, "Dynamic Processes of the Co-creation of a Story by Interactants: The 'Ba-theory' Approach as a Step to an Ecological Study of Discourse," Workshop on Comparative Pragmatics, 2010 年 09 月 06 日, Max Planck Institute (オランダ・ナイメーヘン) .
- ㊅ Sachiko Ide and Kishiko Ueno, "Why Japanese can't Live without Honorifics: The Practice of Modal Expressions and the Logic of Ba," Sociolinguistic Symposium 18 Thematic panel 'Cultural Values and Language Practice: In Search of an Enriched Pragmatic Theory', 2010 年 09 月 04 日, University of Southampton, (英国・サザンプトン) .
- ㊆ Sachiko Ide, "The co-creation of a story in discourse: A ba-theory based approach as a step toward an ecological study," The 2nd

- International Conference on Language and Communication, 2010年08月06日, NIDA, (タイ・バンコック) .
- ③7 Sachiko Ide, "Let the Wind Blow from the East: Using the 'Ba (Field)' Theory to Explain How Two Strangers Co-create a Story," The 12th International Pragmatics Conference, Presidential Lecture, 2011年7月3日, University of Manchester (英国・マンチェスター) .
- ③8 井出祥子・植野貴志子, "場の論理からみた日本語の語用論," IJS シンポジウム 2010 日本語研究の視点, 2010年05月22日, 神戸大学 (兵庫県) .
- ③9 Sachiko Shudo, "Politeness Paradox: A Highly Intersubjective Presupposition Is Hard to Manipulate," The English Linguistic Society of Japan 3rd International Spring Forum, 2010年04月25日, 青山学院大学 (東京都) .
- ④0 原田康也・首藤佐智子・阪井和男, "『場の言語学』の構築に向けて," 待遇コミュニケーション学会 2010年春季大会, 2010年04月24日, 早稲田大学 (東京都) .
- ④1 井出祥子, "場の言語学: 社会インフラとしての言語コミュニケーション," 公開シンポジウム「地球時代の未来を設計する: 場の理論の展開」, 2009年12月26日, 早稲田大学 (東京都) .
- ④2 Yasunari Harada, "Some Aspects of Semantics and Pragmatics of Japanese Adnominal Particle 'No'," The 8th Korea-Japan Workshop on Linguistics and Language Processing, 2009年12月13日, Kyung Hee University, (韓国・ソウル) .
- ④3 Sachiko Ide, "Pragmatics of Individualism and Pragmatics of Contextualism," The 8th Korea-Japan Workshop on Linguistics and Language Processing, 2009年12月13日, Kyung Hee University (韓国・ソウル) .
- ④4 井出祥子, "日本語には何故敬語が必要なのか?: 日本語と場の論理," 電子情報通信学会思考と言語研究会(TL)・早稲田大学総合研究機構情報教育研究所共催研究会, 2009年11月21日, 早稲田大学(東京都) .
- ④5 井出祥子, "認識論から存在論の言語学へ: 場の言語学への招待," 第27回日本英語学会シンポジウム「言語を通してみるインターアクションと文化の同一性—日英相互行為比較」, 2009年11月15日, 大阪大学 (大阪府) .
- ④6 遠藤智子, "現代中国語自然会話における補文構造を用いたスタンス表現," 日本認知言語学会第10回大会, 2009年9月27日, 京都大学 (京都府) .
- ④7 首藤佐智子・原田康也, "言語のメタ認知情報資源としてのインターネット: 一般的な母語話者の母語に対するメタ認知的内省にアクセスする," 日本認知科学会第26回大会, 2009年9月10日, 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (神奈川県) .
- ④8 原田康也・首藤佐智子, "『の』の意味論と語用論再考: 容認度に反映される文脈への貢献度," 日本認知科学会第26回大会, 2009年9月10日, 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (神奈川県) .
- ④9 Sachiko Ide, "The coffee is ready.": The logic of ba and language practice," The 11th International Pragmatics Conference, 2009年7月16日, The University of Melbourne (オーストラリア・メルボルン) .
- ⑤0 Sachiko Shudo and Yasunari Harada, "Presupposition manipulation as a politeness strategy: politeness through ostensive inferential communication," The 11th International Pragmatics Conference, 2009年7月16日, The University of Melbourne (オーストラリア・メルボルン) .
- ⑤1 Tomoko Endo, "Epistemic Stance in Chinese conversation: The positions and functions of wo juede 'I think'," The 11th International Pragmatic Association Conference, 2009年7月14日, The University of Melbourne (オーストラリア・メルボルン) .
- [その他]
ホームページ
<http://www.decode.waseda.ac.jp/ba-linguistics/index-j.html>
6. 研究組織
(1)研究代表者
原田 康也 (HARADA YASUNARI)
早稲田大学・法学学術院・教授
研究者番号: 80189711
- (2)研究分担者
該当なし
- (3)連携研究者
井出 祥子 (IDE SACHIKO)
日本女子大学・名誉教授
研究者番号: 60060662
片桐 恭弘 (KATAGIRI YASUHIRO)

公立ほこだて未来大学・複雑系知能学科・教授
研究者番号：60374097
吉本 啓 (YOSHIMOTO KEI)
東北大学・高等教育開発推進センター・教授
研究者番号：60060662
阪井 和男 (SAKAI KAZUO)
明治大学・法学部・教授
研究者番号：50225752
首藤 佐智子 (SHUDO SACHIKO)
早稲田大学・法学大学院・准教授
研究者番号：90409574
武黒 麻紀子 (TAKEKURO MAKIKO)
早稲田大学・法学大学院・准教授
研究者番号：80434223

(4)研究協力者等

前坊 香菜子 (MAEBO KANAKO)
一橋大学大学院・言語社会研究科・博士後期課程
研究者番号：-----
横森 大輔 (YOKOMORI DAISUKE)
京都大学高等教育研究開発推進機構・非常勤講師
研究者番号：-----
遠藤 (小池) 智子 (ENDO TOMOKO)
日本学術振興会特別研究員 PD (受入先：京都大学)
研究者番号：-----
ブロダルチック エレーヌ (Włodarczyk Hélène)
パリ第四 (ソルボンヌ) 大学・理論応用言語学研究所・所長
(海外共同研究者) 研究者番号：-----
ブロダルチック アンドレ (Włodarczyk Hélène)
パリ第四 (ソルボンヌ) 大学・理論応用言語学研究所・研究員
(海外共同研究者) 研究者番号：-----
崔 在雄 (Choe Jae-Woong)
高麗大学校・言語学科・教授
(海外共同研究者) 研究者番号：-----